

な か ま

発行
佐倉市立中央公民館
な か ま 編 集 係

〒285-0025
佐倉市 錦木町 198-3
電話 (043) 485-1801

2 ページ	グラウンドゴルフ	細野 栄次	エジプトを旅して	宮川 久子
3 ページ	焼酎について	松村 尚幸	木曾のナカノリサン	宮本 定雄

ペットロス

田 中 郁 三

十五年間家族の一員として暮らしてきたハスキー犬が逝った。埼玉のブリーダーへ家族で行った際、娘が一目惚れして購入した犬であった。

この犬は、人に媚びることもなく愛想がよいわけでもないが、それでいて飼い主を立て無駄吠えもなく、街中で飼うには最適であった。ただ、大型犬で力も強く、家内は散歩の折に引き倒されることもあったらしい。

ひところ、私が海外に単身赴任、子供たちは西と東で下宿暮らし、家内が一人で家を守る時期があり、この時は正に犬が家族を繋ぐかぎ紐ひもとしての役割を果たしてくれ、家内が独り言をつぶやく相手役をも担ってくれていた。誰もいない家の寂しさをしっかりとカバーしていたようだ。退職後、この犬の面倒を見

ることになり、朝夕の散歩、給餌、ブラッシングや住処の清掃などを引き受けて、犬と一緒にいる時間が増えた。とは言え、長い間面倒を見てきた家内には敵わず、散歩に連れ出す際にも家内のある方ばかり眺めていて、こちらへの注意は向けてこなかった。今誰が面倒見ているのか判っているのか、といたくなくなったものである。

その半年後に急に元気がなくなり、獣医に見せたところ心臓に疾患があり、投薬が必ずとのことで、以来、毎日心臓薬を飲ませ続けた。その効果か再び元気になり、散歩の際に他の犬連れの人たちからは歳には見えないと言われていた。

それから二年、今年六月に朝の散歩から戻った後、急に足腰が立たなくなつた。獣医

の見立ではどうも腹部に腫瘍があるらしいとのこと、年齢からして投薬以外の処置は不可能との託宣。

数日後、戻り次第獣医に見せるからと、あえぐ犬を尻目にゴルフに出かけた。この日のスコアは自己ベストタイの上、ホールインワンのおまけつき。やばいなと思っていたら、ゴルフ場への家内からの電話ですべては犬が最後に残してくれた贈り物だとわかつた。

犬に逝かれると、確かに、家族を亡くしたのと変わらぬ気分である。習慣になつていた散歩は続けようと努めているが、出掛けに勝手口を開けると顔を出すはずの犬がいないのは寂しいし、一人で歩いていても何か物足りない。

家内との食事でも、これは犬の好物だったなどと双方が同じことを言ったりする。これが世に言うペットロス症候群なのだろう。

(編集委員)

グラウンドゴルフ

ゲートボールに代わってグラウンドゴルフが高齢者の間で盛んになってきた。特別な施設や難しいルールも必要とせず、広々としたグラウンドでの全身運動。これぞシニアスポーツの極みと言えそうである。

そもそもグラウンドゴルフなるものは、鳥取県の泊村が高齢者向けに考案したものと聞く。専用の木製スティックで直径五センチほどの硬いボールを打ち、ゴルフのように何打でホールインするかをハコースで競うのだが、コース間隔の差がまちまちであり、それが難関だ。

地域の高齢者クラブに加入し、地区大会を目指しての練習を始める。徐々に距離勘や打球勘が掴めてきたようだ。シヨートホールで初めてホールインワン。これが病み付きの始まりである。

きょうも人気の無いグラウンドで思いっきり練習。スコ

アラを兼ねてだったが、連続ホールインワンを達成した。好成績を挙げようとする沈み、無我の境地というのか、自然体で臨んだ時には不思議に好記録が出る。すべてのスポーツに言えることなのだろう。

さて、春秋に開かれる地区大会。今回は二十一チーム、百五人の選手とスコアラ一十一人、総勢百二十六人が参加するという盛況ぶりにシニアパワーを感じる。上座総合公園の緑が綺麗だ。女性三人、男性二人の編成で臨んだわがチームは、不馴れなグラウンドコンディションに当初は戸惑ったが、後半に至って三人がホールインワンを記録するなど大健闘。上位入賞は逃がしたものの、次大会への大きな期待を胸にした。

(白井 細野 栄次)

エジプトを旅して

アフリカ大陸の土に足を踏み入れるのは初めてなので、ワクワクする思いで出発しました。直行便のため中国を跨ぐルートで、いつもと違うと思っていたら「窓のシェイドをおろして下さい」とアナウンスがあり、防衛上の問題なのかと考えました。十四時間でカイロに到着です。

市内観光で走行中、ギザのピラミッドが目前に現れ大歓声があがりました。三千五百年も前に造られたものを目の前にして、どのようにという思いが頭の中を駆け巡りました。でも造られて、今も残っている事実だけでいいのだと、変に納得できました。ピラミッドの中は暗く足場の悪い通路で体を屈めて登りましたが、何もない部屋があるのみでした。スフィンクスがその前に鎮座して守っていました。風雨に晒され赤い色もはげ、さ

らに全体が風化し痛々しい姿でした。

砂漠の砂は粒子が細かく軽いので風が吹くと視界ゼロで目も開けられません。空港もクローズしてしまします。直射日光が眩しくサングラスは必需品でした。私などとても住めないといつくづく思いました。

色々な神殿をたくさん見学しましたがみな石の文化です。大きな石を割る時はまず木の楔を打ち込み、水をかけその膨張力を利用するのです。それを削りヒエログリフの絵文字で今日に伝えていきます。先人達の知恵と学習能力には、驚嘆することばかりです。国立博物館には、ツタンカーメンのマスクと副葬品が山のようであり、どれも現代に通用しそうです。それらの偉大な人々の文化も長い間植民地となっていたことも関係するのだから、今は停滞しているのと。誠に残念です。

(上座 宮川 久子)

焼酎について

焼酎は、酒税法に基づき蒸留の仕方によって、甲類と乙類に分けられています。これは等級ではなく、製法上の分類です。乙類は蒸留機の構造が単純なため、原料の香味成分が溶け込みやすく、特有の芳香と風味があります。乙という劣ったイメージを払拭するために一九七一年から「本格焼酎」と表示され、そう呼ぶようになりました。

本格焼酎のルーツといわれる泡盛は、沖縄だけでつくられている蒸留酒のことをいい、沖縄原産の黒麹菌を使い米麹と水だけを全量一度に仕込んで発酵、蒸留した酒です。蒸留酒の起源は起元前三〇〇年頃の古代ギリシャまでさかのぼることができません。それが中国や東南アジアを経由して、十五世紀に入り、当時の琉球王朝に伝わったと考えられています。

原料別の特徴

米 特有の香りと芳醇な丸み、代表格は沖縄特産の泡盛と熊本球磨焼酎
芋 ふくよかな風味と芋独特の甘味。鹿児島県や宮崎県南部など九州南部が主産地
麦 麦特有の香ばしさとおのかな甘味、淡麗で軽やかな風味。麦焼酎が誕生したのは長崎県、香岐。その後大分県で麦一〇〇%の焼酎がつくられました。
そば 柔らかくてほんのりとした甘味とコク、さつぱりとした飲み心地が特徴。
その他 さとうきびからつくられる黒糖焼酎。独特の風味と自然のおいしさが生かされたとうもろこしの焼酎。他にもかぼちゃ、にんじん、栗、じゃが芋など、多種多様な原料が使われています。

(ユーカリが丘 松村 尚幸)

木曾のナカノリサン

長野県木曾谷の一带では、御岳山にお詣りする山岳信仰家の間に、昔から御岳山節というのがあつて、明治時代の古老が酒宴などに集まると、「御岳山でもださまいか」と、言つてその節を唄うのがいつもの習慣であつた。

御岳山節が木曾にとどまつてナカノリサン(木曾節)となり、伊那に移つて伊那節となつた。

ナカノリサンのことを殆どの人は、材木を束ねずに一本の筏を操る船頭さんの中乗りさんと思い込んでいる人が多いが、実は三つ説があつてその一つは、標高三千六十七の御岳山の頂上に御岳神社がある。古来、修験道で屈指の霊峰であり、ここの神様である^{すかひののり}国常立尊・大己貴尊・少彦名命の^{なかつのり}主神の御告げを、取り次ぐ^{なかつのり}中座の人をいう。もう一つは、徳川時代に各地の

大名が幕府への上納金を千両箱に納め、馬の背に左右一個ずつ背負わせて、その間に跨つて乗る金庫番人を指し、この行列が中山道を通行すると木曾路の人々は「中乗りさん」と呼んだ。船頭さんを含めて何れも信憑性がある。

御岳詣りも昔ほど盛んではないが、それでも夏には涼を求めての登山者で賑わうのが木曾福島の町である。そして、毎年お盆の八月十三日から四日間、町役場の前庭で盆踊が行われ、そこでこのナカノリサンが唄われる。

昔から現在でもここの盆踊は櫓も太鼓などの鳴物もなく、手拍子だけで踊る。だから下駄履きの足音が一段と冴える。あの哀調を秘めたナカノリサンの唄声が夜空に響きわたるころになると、しみじみと心細い木曾路の秋がひたひたとやってくるのである。

(千成 宮本 定雄)

9月の黒板

10月号は30周年記念号です

創刊30周年を記念して行われた『なかま』座談会の模様を掲載します。

『なかま』原稿募集のお知らせ

『なかま』の2・3面は、市内の皆様の投稿によって作られています。原稿は随時募集しています。

[原稿規定] 字数 650字(13字×50行)以内。ワープロによる原稿(縦書き)でも結構です。

内容 随筆・・・日常の出来事、生活の中で発見したこと、気付いたこと、経験や感想などご自由にお書きください。

『なかま』に対するご意見・ご感想などもお待ちしております。

いただいた原稿は、掲載するにあたり常用漢字への変更や、句読点等修正させていただきます。

問い合わせ 佐倉市立中央公民館 (第2・第4月曜日は休館日です)

URL <http://www.city.sakura.chiba.jp/kominkan/cyuuou/index.htm>

わくろ道

私は古希を迎えた年金受給者である。今年、市役所から届いた介護保険料、健康保険税、市民税の納税通知書を見てあらためて驚いた。聞いてはいたが実際の金額を昨年と比べて見ると一目瞭然、相当なアップである。高齢者向け控除が見直され、収入は同じでも大幅負担増になった。現在の会社員も同じだという。

なぜ、こんなことになったのか。それは借金まみれの国の財政再建と、団塊世代の退職後の超高齢化社会への対応のためと説明されている。小泉さん一人の責任ではないとは思う。次の総理大臣に期待したいところだが、誰がなっても代わり映えはせず、消費税値上げで追い討ちをかけてくるだろう。もうこうなつては相当な覚悟で生活パターンを変え、自己防衛しなければならぬ。さみしいなあ。

あがき



お蔭様で当月号も内容豊富な紙面になりました。

細野さん、次の大会では、チームワークよろしく頑張つて上位入賞してください。

宮川さん、少ない字数で旅行記を表現することに苦心されたでしょう。クルーズ船でのナイル紀行もされたとか、ナイルの川面を吹く風は、貴女に何を語りかけましたか。

松村さん、何気なく飲んでいたことが恥しくなりました。今後は、この内容を肴に多くの人と楽しめそうです。

宮本さん、読んでいくうちに木曾谷の風景・歌・盆踊が自然に目に浮かんできました。それぞれご自分の言葉で表現された文章をありがとうございます。

『なかま』は来月で創刊三十周年を迎えます。この節目に編集に携われることを光栄に思っております。

(安田)